

食育の芽



「人づくりセミナー」を開催！

協働で進める「すみだの食育」 その“ルーツ”と“こだわり”から「新たな一歩」を探る

設立から10年を経過したすみだ食育goodネット（以下goodネットとする）。これまで官民協働を土台に「すみだの食育」を進めてきましたが、その道のりは決して平坦ではありませんでした。それでも話し合いを重ね、あえて手間をかけながら10年間歩み続けることができたのは、何を目指し、何を大切にしながら活動するのかを、常に確認してきたからでした。その原点を再度共有して、新たな一歩を踏み出すために、2022年6月3日「人づくりセミナー」を開催しました。

セミナーでは、活動の知られざる“ルーツ”を辿り、これまでの活動を貫いた“こだわり”を深掘りするために、元墨田区保健計画課食育担当の秋田昌子さんによる講演が行われました。秋田さんは、自らの経験を通して「地域の本当の課題を解決するには、多様なつながりをつくり出すことだ」と確信。これが現在の活動の“ルーツ”になっていることが明らかされました。あわせて、何にこだわって活動を続けてきたのかが、具体例を通して語られました。

想いを共有し、新たなつながりを生むワークショップも実施

セミナーでは、講演を聞くだけでなく、ワークショップも同時に行われました。参加者は7つのグループに分かれ、話を聞いて一番印象に残ったことと、その理由を各グループで共有。さらに、その内容を発表しました。そこには、“ルーツ”と“こだわり”について理解

を深めるだけでなく、参加者同士が想いを共有して、新たなつながりが生まれる場にしたいという想いが込められていました。各グループでは、goodネットのメンバーによる進行のもと、想いの交換と共有が活発に行われました。



「すみだの食育」の“ルーツ”と“こだわり”、新たな芽と

セッション1 知られざる“ルーツ”



講師は秋田昌子さん。現在、農林水産省食育活動表彰審査委員、食育推進協働コーディネーターとして活躍

秋田さんは、墨田区の職員として公衆衛生・教育・福祉分野で仕事をするうち、各分野の個別課題の解決には、同職種はもちろん、他職種や地域のつながりも必要だと痛感するようになりました。さらに、保健・難病・精神

保健分野の先達との出会いから、地域づくりには多様な人による「つながり」がカギになることを確信しました。そこで、福祉や保健の仕事を通して協働で取り組むことにチャレンジを始めたのです。

「多職種協働」、「専門職と区民の協働」を実践

福祉施設では多職種が協働して摂食・嚥下ケアを行うしくみをつくり、施設のノウハウを地域に伝える取組を10年近くかけて実現。その経験を活かして区民向けの介護予防事

業「いきいき健康教室」を専門職と区民が協働して進めるしくみも立ち上げました。しかし、どちらも担当者が変わると消失してしまい、新たなカタチの取組が必要だと痛感しました。

セッション2 10年間の歩みを貫いた“こだわり”

転機になったのは2005年に制定された食育基本法です。「国民が健全な心身を培い、豊かな人間性を育むこと」を目的に、各分野に横串を通すこの法律は、多様なつながり

をつくるチャンスだと直感。自ら食育担当に手をあげ、官民協働による「すみだの食育」を目指し地道な取組を通して仮説検証を繰り返しました。

食で!育む「すみだの食育」

🌱 官民協働の取組

官と民がめざす姿を共有し、対等な関係をベースにお互いの持てる力を活かし、食で育むまちづくりに向けて一緒に汗をかく環境づくり。

🌱 「課題解決型」から「夢実現型」へ

目的は、夢を実現すること、その過程にある課題解決は目的ではなく手段であることを共有し、夢実現型の思考、姿勢で取り組む。

🌱 食育を推進する人づくり

官民協働を理解し、複眼的な視野で主体的に食育を推進する「すみだ食育推進リーダー」を育成し、活躍の場を広げる。

🌱 立場、分野、世代、地域をこえてつながる

立場、分野、世代、地域という肩書や枠をこえてつながり、人としての想いを共有し、取組の過程でそれぞれの長を活かし合える関係づくり。

🌱 地域の横断的なネットワークづくり

すみだ食育推進リーダーを中核に区民、地域団体、NPO、企業、大学などの多様な人々が横断的につながる「すみだ食育 good ネット」を設立し、ネットワークの輪を広げる。

🌱 つながることに手間をかける

イベントの実施や事業の推進の前に、それを動かす関係者のつながりに手間をかけ、その結果、人や地域が育まれ豊かな取組が生まれる。

「すみだの食育」が内閣府に評価され、墨田区で全国大会を開催!

中核となる人材が育成されていること、地域のネットワークが形成されていることなどが内閣府から評価され、墨田区で「第10回食育推進全国大会 in すみだ 2015」

が実施されました。この大会は、通常は都道府県や政令指定都市を開催地として実施され、墨田区のような基礎自治体で実施されるのは初の快挙でした。



goodネットが食育推進ボランティア表彰(大臣賞)を受賞した

セッション3 新たな芽 そして「新たな一歩」

「育み」の成果が次々とカタチに

「すみだの食育」の成果として紹介されたのが、墨田児童会館の「すみだ農園」です。子どもたちが育てたトマトを収穫し、みんなでつくってみんなで食べる取組を行いました。館長の八重田裕一朗氏は、「トマトを育てていたら、地域が育まれました」と語ります。さらに、この活動に小学生の時に参加した田口愛乃果さんは農業に興味

をもち、現在農業大学で学んでいます。単に食の大切さを学ぶだけでなく、自分の将来を考えるきっかけにもなっているそうです。

愛乃果さんの夢は農産物を生産するだけでなく、子どもたちが農業にふれる機会をつくることです。



愛乃果さんは、ボランティアとして活躍している



愛乃果さんが「トマト先生」になって考えたトマトのクイズに答える子どもたちの様子



小学生の時、「すみだ農園」に参加していたにわゆうと丹羽優登さん（写真右）が中学生になり、ボランティアとして関わる

🌱 政治家になり恩返ししたい

高校生の^{わたりおうき}渡 桜城さんは、すみだ青空市ヤッチャバの出店者を通して墨田児童会館が企画したキャンプに小学生の時に参加。その体験から「将来、政治家になり児童館に恩返しをしたい」と語る。



🌱 人と出会い将来を考えたい

中学生の^{じゅりゅう}鶴カナイナ寿竜さんは、すみだ青空市ヤッチャバの販売体験に小学生の時に参加。現在はヤッチャバ事務局の一員として活動。「多世代の人と出会い、将来について考えたい」と語る。



広がる交流の輪

「すみだの食育」は墨田区をこえて広がり、福島県相双地域や、北海道芽室町との交流にもつながりました。

福島県相双地域

2018年度「食育から生きる力を養う」をテーマに相双地域でワークショップを開催。



2019年度は、「知る! 出会う! 体験する in ふくしま 2019」を実施し、区内7つの児童館の職員等が参加して、相双地域の復興現場を視察し、「えごま」の収穫体験を通して交流を深めました。

北海道芽室町

「特別区全国連携プロジェクト」により、墨田区・台東区と十勝18町村の連携が決定。墨田区の依頼を受けた good ネットは、人がつながることを原点に食育を推進してきた経験を活かし



“「芽」から始める「すみとかプロジェクト」をスタートさせました。2019年度には芽室町でワークショップを実施。2021年度は、墨田区と芽室町で子どもたちが参加する「かかしづくり体験」等のワークショップを開催しました。

参加者の「新たな一歩」

「すみだの食育」の“ルーツ”や食で！育む“こだわり”に触れた参加者は「新たな一歩」について、グループ内で話し合いその想いを宣言しました。

わたしの「新たな一歩」

- 子どもたちのつながりづくり 社会について考える
- 子どもたちを次世代につなぐ
- 地域での活動を地域の様々な人と共に進めたい
- 前へ！進むこと 継続すること
- 人との交流で人が変わる 自分も変わる
- 「出来ない」ことを「出来る」につなげる
- 今日の出会いかから何かやってみる！



グループごとに宣言する

セミナー終了後の講評

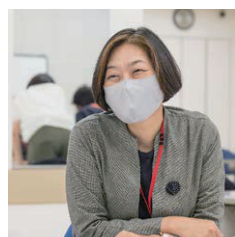
協働で進める「すみだの食育」の“ルーツ”を本邦初公開。「つながりしくみ」づくりは説得力がありました。貫き通した“こだわり”から生ま

れた奇跡の連鎖は、参加者の共感を呼びわたしの「新たな一歩」が芽生えました。皆さんと一緒に踏み出す一歩！とても楽しみです。



十文字学園女子大学名誉教授
長澤伸江氏

参加者に聞く セミナーの感想と、今後に活かしたいことは？



宇都宮大学 農学部教授
西山末真先生

つながりが大きな成果を生むと知り、すごく励まされた

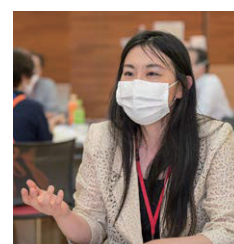
栃木県で食育連絡会の会長をやらせていただいているのですが、組織や分野をこえた連携や共感がなかなか生まれません。一方海外では、食の課題解決のために様々な分野の人が連携する取組が行われています。「日本で

も同じことを」と考えていたのですが、すみだですでに実践されていると知りました。セミナーに参加して、「すみだの食育」が多様なつながりを生み出すことを大切にしてきたと知り、私自身、すごく励まされた気持ちです。

同じ土俵に立ち、「どうすればできるか？」を一緒に考える

子どもたちに、野菜は買うのが当たり前ではないことを知ってもらうため、野菜が育っていく過程も学んでほしいんです。そのためには、地域の大人がつながることが大切だと、セミナーに参加してわかりました。子どもたちを育むには、

多くの大人の力が必要です。お互い協力するには、相手を批判するのではなく、同じ土俵に立ち、どうすればできるのかを一緒に考えることが大切なんです。今日の気づきを大切に活動していきたいです。



すみだ青空市ヤッチャバ事務局 岩脇夕貴さん



中川児童館 館長
上原敏也さん

活動が芽となり花が咲くような「子育ての拠点」にしていきたい

「地域の子育ての拠点になる」が当館の理念です。新型コロナウイルスが再拡大している中、地域で何が必要とされているのかを考え、お子さんや保護者の方を集めるだけでなく、その活動が小さな芽となり花が咲くような子育ての

拠点にしていきたいという想いを強くしました。また、管理職の立場として、人を動かす力や、仕事の任せ方を考えるきっかけになりました。常にアンテナを張り、何がチャンスで何がピンチなのかキャッチしていきたいです。